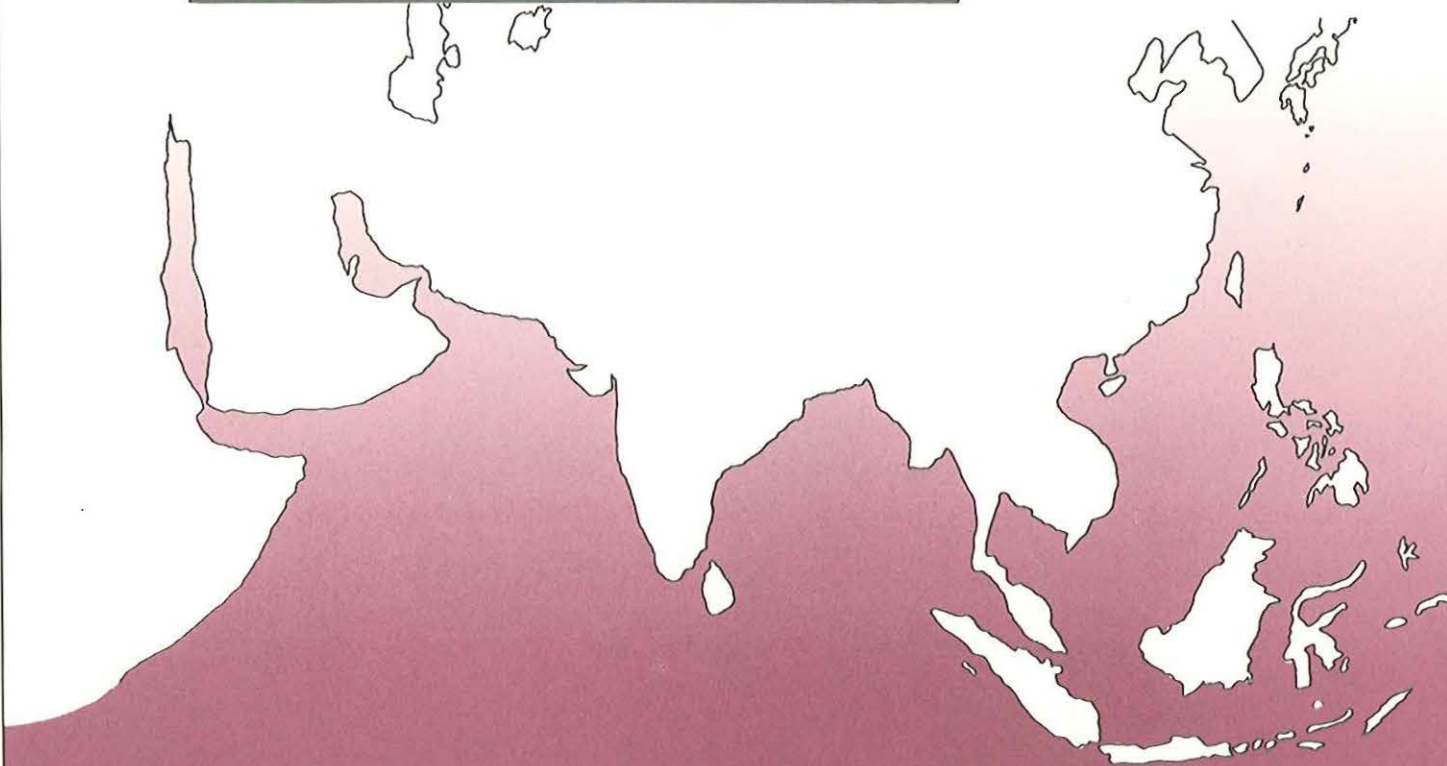


# Asian Population & Development

アジア

人口と開発

ISSN 0911-5684



1989・No.30

財団法人 アジア人口・開発協会(APDA)発行

目次

巻頭言

1

羨望・非難・懸念  
の中の日本

2

東京大学名誉教授 川野重任

第二十二回国際人口学会総会

8

日本大学法学部教授 岡崎陽一

APDA・日誌

13

(助)アジア人口・開発協会発足並びに事業経過 ..... 14

本協会実施調査報告書及び出版物

## 卷頭言

今年は日本の人口研究の歴史上、記念すべき年である。明治三十二年に出生、死亡、婚姻、離婚、死産という人口事象を扱う人口動態統計制度が始まって九十周年。国立の人口研究所としては世界で最も長い歴史を持つ厚生省人口問題研究所が設立五十周年を迎えたのである。

この間に日本の人口をめぐる状況は大きく変化した。明治初期に三千五百万人だった人口は、昭和初期には六千万人になり、現在は一億二千万人。経済、社会の目覚しい発展を背景に「多産多死」から「多産少死」、そして「少産少死」へと人口転換を遂げた。現在は高齢社会への道を駆け足で進んでおり、二〇二一年には老年人口比率が二三・六%と、世界で前例のない超高齢社会への突入が予測されている。

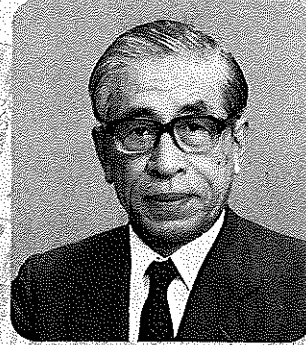
日本人はせっかちだ、といわれるが、その評判を裏付けるような速い変化である。

なかでも母子保健の水準を示す指標の一つである乳児死亡率は、昭和六十三年は出生千に対し四・八と世界で最も低くなり、途上国だけではなく米国などからも理由を聞かれる。

国連人口基金は十一月に「二十一世紀への人口戦略」を立案する国際会議を開く。来年三月には初の「人口と女性の地位に関するアジア女性議員会議」がある。母子保健から高齢化まで、日本にはアジア諸国に知ってほしい多くの経験がある。どう伝えるか知恵を出したい。

(西内正彦)

# 羨望 非難 懸念 中の富裕日本



東京大学名誉教授

川野 重 任

## 一、問われる基本対応

ここ暫らく、いわゆる「難民船」の漂着が毎日の如く伝えられた。日本を目指しての「難民船」の大群が連日の如く、ヴェトナム、中国の海岸地帯から流れ出し、東支那海に溢れ返っている感じである。

日本に行けば、十倍、二十倍の賃金が稼げる、一、二年もおれば生涯の生活費が稼げるといったようなことが魅力の引力となっているようである。まさに「宝の島日本」というところだが、この他、眼に見えない形での来住も風俗営業を中心に、全国十万人にも及ぶという。短期、観光目的でのヴィザの更新、切換えで、反覆、来日するというわけだが、これも同断であろう。

ところが、この日本に対して、アメリカその他の欧米先進国は、「日本の消費者が可愛そう」という。要するに、物価高で、日本人の消費水準は国民所得統計の示すほどには高くない。輸入品をもっと自由に入れれば、内外価格差もなくなり、日本人の生活水準はもっと高くなる筈だ。それに日本の輸入制限、市場非開放政策の結果、先進諸国の経済自体、成長を阻害されているという。

ところで、その日本においてはどうか。現在のところ、経済、極めて好況というが、将来展望については、高令化、老令化社会の到来が真剣に懸念されている。それにそなえての消費税導入の是非が今や大きな政争問題となっている。

それだけではない。冒頭の難民到来についても、それへの対応で、意見必ずしも明確とのみいえないようである。建設業を中心とする労働力不足の現状はこれを迎えようとし、他は西ドイツの例を以てして警戒的である。一方、外においても、日本の非開放的政策がこの面でも批判を受けるといった問題もある。果してこれにどう対応するか。

私は現在、これが日本として対応上の姿勢を問われている最も基本的かつ重要な問題だと思う。にもかかわらず、論議必ずしも活発でなく、

その日暮し的に問題を先送りし、糊塗している感じである。

## 二、「国は自ら興せ」の姿勢を

ではこれへの対応として、まず「難民」問題についてはどうか。これを積極的に受入れ、不熟練、低賃金労働の不足の補いをする、その上に自らは「手を汚さない」技術国家、文化国家の建設をすすめる。それによって度量豊かな先進国としての仲間入りをするという方向で行くか、それとも、西ドイツの先例を深刻に受けとめて対応すべきか。私は卒直のところ、日本はまだ世界中の難問題を一手に引受けて解決してやるだけの力もなければ、器量もそなえていないと思う。といって、周辺の国々の問題に眼をつむって、独りよしとしていることは立地的にも出来ない。根本の政治不安、経済困難という事態がある限り、難を避け、救いを求める人々の群は陸続、跡を断たないであろう。しかし、もしこれを無定見に受入れれば、この種の経験の乏しい島国日本として、その蒙るべき社会的混乱とまではいわないまでも、矛盾、摩擦のほどはおそらく想像を超えたものとなるであろう。力仕事、肉体労働はこれらの人々に委せておけばよい。日本人はもつと智的、技術的、精神的な仕事に専念すればよい。それが文化国家というものだ、などといった論など、論外である。

労働力は単なる労働力ではない。「生きた人間」そのものなのである。当然、人間としての、生活上、政治上の要望もあれば、希望もあろう。それが社会的に表明される場合、受入れ時の事情や、国籍、人種などの条件を理由として、制限したり、区別したりなど出来るか。当然、出来ない。在日が長期化した場合、その波紋は、家族関係の要因などを通じて、一層、複雑、多様、末広がり的に拡がるであろう。それは一種の非人間的な関係を新たににつくり出すことにもなる。そもそも、労働力不足への対応などと考えること自体が間違いなのであり、出発点において対応を誤っているとしなければならぬ。

ではどうするか。私はすでに国交を回復し、大使交換の国際関係さえ成立している国との間において「難民」云々の問題のあること自体がおかしいと思う。「難民」問題は本来、頼るべき国家権力、国家秩序の喪失を前提し、いわば「見るに見かねて」、「人道的立場」から救いの手をさしのべるところに始まり、そこに成立すると思う。ところが、それがれつきとした国家、国際的にその存立が認められた、いわば「一人前」の国から来るとした場合どうなるか。難民に逃げられる国の立場からすれば、「面目喪失」であり、受入れる国の側からした場合には、「余計なお節介」ということにならないか。何れにしても、対等につき合っている国同士の礼としては、情を質し、理をつくしてお引取り願うというのが筋ではないか。

「家出」して、「逃げ込んで」来た他家の子供を一方的にかばい、いわば家事手伝いに使う、しかもその両親のいい分も聞かないというのは、隣近所のつき合いもうまくいかないであろう。国家間でも、相手国の「面子」、「威信」を傷つけ、無視するような対応はとるべきではない。また、国民に逃げ出された国の側としても、「得たり、賢こし」の態度は、いやしくも独立国家の看板を掲げている以上、とらないであらう。

にもかかわらず、現実には現実である。右のような姿勢での対応が第一であるが、私は永年、留学生事業に関係している立場上、この面での対応も亦、当面、重要な課題となると思っている。つまり、「国は自ら興すもの」の自覚を来日、学習中の彼等に期待するということである。実態は残念乍ら、なお、「頭脳流出」大部分という状態であるが、この流れが変らない限り、アジアの安定、特に日本を中心とする、周辺諸国との関係の安定は実現覚付かないものと考ええる。その解決はそれら諸国にとつての課題であるとともに、それに劣らず、日本にとつても重要課題である。周辺諸国の発展と安定なくして、日本のそれはあり得ないのである。

### 三、「高令化社会必至論」を戒める

次にわが国自体についての懸念の問題だが諦観早きに失する、との感をもつ。諦観は日本は二十一世紀早々にも大変な老人国家になる、養われるべき人間の急増で社会保障も覚付かなくなる、ということである。そしてこれを理由に既述の消費税問題なども登場したが、しかし、基調として、日本の将来展望については横手傍観の姿ではないかと思う。一体、老人国家化は絶対に避け得ないものなのかどうか。その下での日本の経済成長をどう考えているのか。一面、前述の労働力不足論に見られるように、悲観、懸念の雰囲気が見られるとともに、他面では何とはなしの楽観論が潜在しているような気もする。

一体、老人国家化論はどこから来るか。いうまでもなく出生率の低下である。その下での経済成長は停滞、低下の運命を辿ること当然である。では出生率の低下は？ 全国に二百万人の三十代独身の男性がいるという。相手となるべき女性の結婚忌避とまではいわないまでも、消極的姿勢の結果である。そしてその背景には女性の高学歴化などがいわれるが、要は現行社会体制の下では、女性の社会活動と結婚との間の矛盾が多過ぎるということである。

結婚は女性の社会活動を事実上中断する。それによって人間社会の発展上重要な今一つの機能、育児活動が行なわれることも確かだが、しかし、女性の社会的活動、その機能の高まりに応じて、育児活動のあり方も亦変らねばなるまい。端的には、その中断の程度をなるべく軽くし、また、育児活動の一段落後は、社会活動復帰への道を弾力的に開いてやることである。託児所、保育園、幼稚園などの施設の整備、拡充もそれであろうし、社会活動復帰に伴う支障を極力、排除、軽減してやるなどの措置もそうであろう。

要は男子は外、女子は内、の旧来の観念を払拭し「半天を支える」女性の機能を、育児活動を含めて、そのままフルに生かすということ



であろう。かつて農業はもちろん、漁業、林業など——零細、小規模の商店経営などもそうだが——、小規模、自営業が経済の中心だった時代には、女子は事実上、妻、母親、労働力の三位一体の体制で、八面六臂の大活躍をした。そこへ企業社会が現れ、職場と家庭の分離が行なわれるに及んで事態は変わったが、今や再び、女性の職場登場をうながし、その多角的な機能発揮を必要とする時代が訪れて来た。生産行程の高度の機械化、分業化の進展がそれだが、この条件と環境を生かし得ない国と社会は減ぶ。

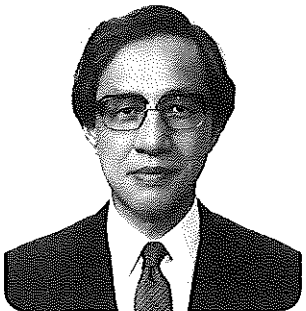
その意味で、今、日本は、女性の社会的機能と地位の位置付けをめぐって、一種の岐路に立っているといわねばならないが、仮りに、「独身貴族？」の増加と出生率、人口増加率の低下を当然視する立場に立つ限り、日本の前途はないものとしなければならぬ。

自らの人口規模を低く抑え、他人労働、外国人労働に依存し、小じまんまり、小綺麗に、そして要領よく人生をわたるといった、そのような文化国家の建設の夢など実現出来るものではない。

かつて多くの国が興り、栄え、そして滅びて行った。二十世紀の今日、なお、われわれの眼前で同様の事態が音をたてて進行しつつある。要は自ら額に汗せず、既得権益大事に、そして自己の利益中心に生きる国は減ぶということである。そして、人口の増加なくして、栄えた国なしということでもある。人口増加のもつ活力も亦われわれの場合忘れてはならない。

(一九八九、九、一五)

# 第二十一回国際人口学会総会



岡崎 陽一

(日本大学法学部教授)

一九八九年九月二〇日から二七日まで、インドのニューデリーで表記の学会が開催された。周知のとおり、国際人口学会 (International Union for the Scientific Study of Population. IUSSP) は一九二八年に人口研究者の国際的な学会として設立された。その会員は、狭義の人口学者だけではなく、経済学、社会学、統計学、医学など広い範囲にわたる学者からなり、さらに、公衆衛生、家族計画などの分野で行政にたずさわる人々を含んでいる。

本学会の目的は、科学としての人口研究を推進するにとどまらず、各国の政府、国際機関、民間団体の人口問題に対する関心を高めることにおかれている。この目的を達成するため、本学会は、総会、地域会議、専門会議の開催、学問的研究の実施、会議ならびに研究委員会成果の刊行を行っている。さらに本学会は、国連経済社会理事会および国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問的地位 (consultative status) を与えられている。

本学会は、人口研究者の国際的学会であるだけでなく、上述のようににきわめて幅広い活動を行っている。現在、会員数はおよそ一八〇〇人、その居住国は一二四カ国、国籍は一〇二カ国にわたっている。居住国別にはアメリカ合衆国四六一名、フランス一一一名、カナダ七五

名、イタリア七三名、イギリスとインド六四名、日本四八名といった分布であり、アメリカ合衆国が圧倒的に多い。国籍別にみてもほぼ同じである。

さて、今回インドで開催された第二一回総会は、四年に一度の間隔で行われる総会 (General Assembly) であって、ここでは、学術研究発表のほか、学会の重要な行事である役員の変更が行われた。ただし、今回の第二一回総会は、一九八五—一九八九年期の役員によって企画・実行された。その構成は、会長ウイリアム・ブラス(イギリス)、副会長マツシモ・リビーバッチ(イタリア)、事務総長ならびに出納役ジョルジュ・タピノス(フランス)、ならびに以下の九名の理事、マグノ・デ・カバルホ(ブラジル)、エルバドリ(エジプト)、シャルロツテ・ヒョーン(西独)、河野稠果(日本)、ジョフリ・マクニコル(オーストラリア)、ローラン・プレサー(フランス)、サミュエル・プレストン(アメリカ合衆国)、ジョルジュ・ソモザ(アルゼンチン)、レオン・タバール(フランス)。

本総会の実施は、アシス・ボース(インド)を委員長とする国際組織委員会によって大綱が作成され、さらにブラス会長を委員長とする運営委員会とアシス・ボースを委員長とする国内委員会によって具体的な設営が行われた。

まず、九月二〇日午前十時から総会会場であるヴィガン・バーバン(インド政府の専用会議場)、で開会式が行われた。これに出席したラジブ・ガンジー首相は、開発途上国の開発にとって人口政策が一つの重要な要因であることを指摘すると同時に、開発政策が総合的に、また世界全体の政治経済環境の改善によって推進されるべきことを強調した。開会式に引き続き、「インドの人口」をテーマとする全体会議が行われ、インドからチャンドラセカーランほか二名とパキスタンのイナヤチュウラ、アメリカ合衆国のサミュエル・プレストンが報告を行った。

二〇日の午後から二七日まで、日曜日を除いて学術研究報告が行われた。その構成は、正式部会 (Formal Session) 二七部会と、自由部会 (Informal Session) 二二部会に分けられ、ほかに特別部会 (Round Table Session) 二部会が設けられた。これらは、いずれも、あらかじめ国際組織委員会によって、テーマと組織者が決定された。なお、正式部会は二時間とし、組織者による招待論文二編、投稿された論文から組織者が採択した論文二編が、論文執筆者によって発表され、討論され、さらに他の論文投稿者ならびに一般参加者をまじえて討論が行われるという方式である。自由部会もほぼ同様な方式であるが、組織者に対してやや自由な運営がまかされた。

各部会のタイトルをすべてリストアップすることは不可能であるが、筆者が出席できたものを中心に、主要なものをあげると次のとおりである。まず、正式部会については、「中国の人口」、「高齢化—経済的社会的側面」、「先進国の人口動向」、「先進国の家族構造の変化と労働市場」、「家族構造の変化とライフコース」、「巨大都市—趨勢、問題点と政策」が印象に残った。次に自由部会については、会場が正式部会と重なっていたため出席出来なかったものが多かったが、タイトルからみて興味深いものをあげると、「自然出生率から抑制された出生率へ—過去と現在の社会の比較—」、「ライフ・ヒストリ分析—多次元生命表あるいはハザードモデル」、「人口推計」、「世代間人口学」、「経済と人口の相互関係—歴史的考察」、「教育の変化の人口に対する影響」などである。なお、特別部会は、「家族に関する総合的研究について、(a) 制度としての家族から新しい家族モデルへ、(b) 近未来の家族について」と「人口研究者の訓練における現状と最近の経験」の二つであった。

筆者はこの総会に出席して、人口に関する研究が世界的にどのようなに広く、かつ深く行われているかを知ることが出来た。ひるがえってわが国における人口研究の状況を見ると、今後の改善と発展に期待すべき点が多々あることを痛感した。このことを前提にして、筆者の私

見を述べるとすれば、次の諸点を指摘したいと思う。

まず、家族の構造変化とその経済的社会的意義についての研究が現在における中心的な研究課題になっていることである。これは、主として先進国における問題としてとらえられているが、将来における開発途上国の問題としても意識されている。家族構造の問題はわが国においても大きな問題として取り扱われているが、世界における研究の潮流に沿って研究を広め、深めていく必要がある。

つぎに、家族の問題と深く関係して、先進国における出生力の問題が大きな問題となっている。この点もわが国ですでに重要な論点となっているが、今後、各国の研究成果を参照しつつ研究を進める必要がある。これについてとりわけ重要な点は、政策志向を優先させるのではなく、科学的分析に重点をおくべきであり、諸外国の研究態度に学ばなければならない。

高齢化の問題は、一つの大きなテーマとして取り上げられ、小川直宏教授の組織された「高齢化―経済的社会的側面」は、フランス、アメリカ合衆国、中国、イギリスの専門家を発表者にむかえ、きわめて興味深い発表と活潑な討論によって大きな成果を挙げた。ここでもまた、家族の役割は一つの中心問題として論じられた。

以上に言及した、正式部会における大きなテーマのほか、自由部会では、きわめて地味ながら、なかなか面白い研究が進められていることを知ることができた。たとえば、「世代間人口学」では、親世代と子世代の間の人口学的比較が行われ、その一つとして帝京大学医学部の野中教授の発表があった。また、「経済と人口の相互関係―歴史的考察」では、いわゆる歴史人口学的研究の発表があった。

人口に関する国際会議ではあったが、国連が主催する政治的な国際人口会議とは全く性格を異にする科学的研究者の学会であっただけに、人口研究者の立場にある筆者にとってきわめて有意義な会議であったということが出来る。

本總會において役員が交替することとなり、あらかじめ全会員の投票による選挙で決定していた通り、一九八九―一九九三年期の会長マツシモ・リビーバッチ(イタリア)、副会長ジョーン・コールドウエル(オーストラリア)、事務総長ならびに出納役アラン・ヒル(イギリス)ならびに以下の九名の理事、ドラガナ・アブラモフ(ユーゴスラビア)、マグノ・デ・カバルホ(ブラジル)、モニカ・ダス・グプタ(インド)、シャルロツテ・ヒョーン(西独)、ジャック・レガレ(カナダ)、ジエーン・メンケン(アメリカ合衆国)、ジョーン・ポラール(オーストラリア)、ローラン・プレッサ(フランス)、ソー・シーホック(シンガポール)が承認された。

九月二七日午後、閉会式が行われ、第二一回總會は無事終了した。九月二五日現在で発表された参加者名簿によれば、参加者総数九一二名、うちインド人三三七名、日本からは一〇名であった。

なお、四年後(一九九三年)の第二二回總會はカナダのモントリオールで開催が予定されている。

7月2日  
8日

平成元年度「アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査」予備調査団をバングラデシュ国に派遣。(団長・広瀬次雄、遠藤正昭)

7月19日  
8月2日

平成元年度「アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査」調査団をバングラデシュ国に派遣。団長・原洋之介、大塚友美、遠藤正昭)

8月13日  
25日

平成元年度「東南アジア諸国等人口・開発基礎調査」調査団をネパール国に派遣。(団長・黒田俊夫、鷺尾宏明、西川由比子)

9月11日  
12日

「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」開催。

佐藤隆同フォーラム議長他アジア7カ国の運営委員、UNFPA、IPPF等出席。於赤坂プリンスホテル

9月13日  
9月20日

アジア女性会議運営委員会開催

本協会理事会開催。於赤坂プリンスホテル

財団法人アジア人口・開発協会発足並びに議員活動

<p>一九七三・十 (十・十三～二十八)</p>	<p>アジア人口事情視察団派遣(インド、タイ、インドネシア、フィリピン) 国会議員(日本) 岸 信介(団長)、田中龍夫、八田貞義、佐藤 隆、山崎竜男、加藤シヅエ、阿部昭吾 その他 W・ドレーパー、J・タイディングス、花村仁八郎、官庁、マスコミ関係等</p>
<p>一九七四・四・一</p>	<p>『国際人口問題議員懇談会』設立(会長…岸 信介) 衆・参超党派議員一一九名で発足。 ☆世界で初の試みである。</p>
<p>一九七四・四・二十五</p>	<p>『食糧と人口に関する宣言』…国連式典 (於…国連本部) 宣言書署名…佐藤 隆 ○八月及び十一月の世界人口・食糧会議に先立ち、各国政府に現実的且つ果敢な諸政策を採るよう要請する五項目から成る。 ○人口・食糧問題解決の為、国連にリーダーシップをとることを要請した宣言文。</p>



<p>一九七四・八 (八・十九～三十)</p>	<p>「第三回 国際人口会議」 (於…ブカレスト) 総勢 四五〇〇人 齊藤邦吉(元厚生大臣)、八田貞義、佐藤 隆、 堂森芳夫、柏原ヤス、中沢伊登子 他</p>
<p>一九七四・十</p>	<p>「I P U 列国議会同盟会議」 (於…東京) 参加国…六十五カ国 佐藤 隆代議士 「食糧と人口問題」ライス・バンク構想を 提唱。</p>
<p>一九七七・九 (九・三～十八)</p>	<p>中南米家族計画視察団(メキシコ、コロンビア、ブラ ジル、アメリカ、カナダ) 国会議員(八名) 岸 信介(団長)、佐藤 隆、住 栄作、 安孫子藤吉、和田耕作、阿部昭吾、福岡義登、 吉寺 宏、他 顧問団(十六名) 大来佐武郎、花村仁八郎 他 U N F P A 二名、事務局五名 ○先進国にも、途上国にも、人口問題議員グループ を結成させるべく、各国立法府議員に呼びかけた。</p>

<p>一九七七・十二 (十二・五、十二)</p>	<p>「人口と開発先進国会議」 (ロンドン、ボン、ベルリン) 参加国…日、米、英、加、西独(五カ国・十六名) 日本側…佐藤 隆、和田耕作、土井たか子 ○一九七七年九月の中南米視察に引続き各国立法府議員への呼びかけ。 ○国際議員会議の開催について討議。</p>
<p>一九七八・三 (三・二十八、三十)</p>	<p>「人口と開発列国国會議員(IPOP)東京会議」 ― 第一回 国際会議準備会議 ― 参加国…米、英、加、西独、インド、スリランカ、メキシコ、ブラジル、コロンビア(九カ国四十名)、日本(十名) ○運営委員メンバー国、○参加国、○議事日程、○予算</p>
<p>一九七八・十 (十・十六、十七)</p>	<p>「IPOP国際会議準備委員会」(第二回) (於…チュニジア) 日本側参加者…佐藤 隆 他 ○開催国、○主催機関、○議題etc、について</p>
<p>一九七九・三</p>	<p>IPOP国際会議準備委員会」(第三回) (於…メキシコ) 日本側参加者…佐藤 隆 他 ○「宣言」の草案作成、○会議規定、○日程etc</p>

<p>一九七九・八 (八・二十六) 九・二)</p>	<p>一九八〇・九 (九・十)十三)</p>
<p>「IPOP国際会議」 (於スリランカ) 参加国…六十四カ国 他、国連各機関、IPPF等 総勢 五五〇名 日本側…岸 信介、佐藤 隆、石本 茂、中村啓一、 柏原ヤス ☆人口問題議員グループ、結成国二十五カ国を超 えるに到ったので、UNFPAに働きかけ、コ ロンボで開催。 一、「コロombo宣言」採択 この宣言により、一九八一年、アフリカ、 ヨーロッパ、アジアの各大陸での人口会議 が開かれた。 一九八一年 七月 ケニヤのナイロビに 於て 十月 中国の北京に於て 十二月 仏、ストラスブール に於て 一九八二年十二月 ブラジルのリオデジ ヤネイロに於て (予定)</p>	<p>「資源、人口、開発に関するアセアン国会議員代表者 会議」 (於クアラルンプール) 参加国…シンガポール、マレーシア、タイ、フィリ ピン、インドネシア(五カ国) 日本側…佐藤 隆、住 栄作、井上普方 ○日本はオブザーバーとして参加をし、北京会議 開催を提案。合意を取付けた。</p>

<p>一九八〇・十一</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」  日・中打合せ  （於…北 京）</p> <p>佐藤 隆、井上普方</p> <p>○開催地北京への正式な可能性打診</p>
<p>一九八一・二</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」  第一回運営委員会  （於…東 京）</p> <p>参加国…日本、中国、インド、スリランカ、  マレーシア</p> <p>○政治、イデオロギーの問題の除外について</p>
<p>一九八一・三・二十三</p>	<p>佐藤 隆代議士——国連開発計画（UNDP）と  アドバイザー契約締結</p> <p>○一九七九年八月の「コロンボ宣言」に基づく、  地域IPOP会議の開催とそのフォローアップ  を任務とする。</p>
<p>一九八一・六  （六・十九～二十）</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」  第二回運営委員会  （於…北 京）</p> <p>参加国…日本、中国、インド、スリランカ  他 UNFPA</p> <p>日本側…佐藤 隆、住 栄作、  土井たか子 他五名</p>

一九八一・十  
 (十・二十七～三十)

「人口と開発に関するアジア国会議員会議」

開催地…中国北京市  
 会場…人民大会堂

(1) 日本側出席者…

- 1、团长 福田 赳夫 (衆・自)
- 2、佐藤 隆 (〃)
- 3、住 栄作 (〃)
- 4、関谷 勝嗣 (〃)
- 5、桜井 新 (〃)
- 6、粟山 明 (〃)
- 7、石本 茂 (参・自)
- 8、田代 由紀男 (〃)
- 9、林 寛子 (〃)
- 10、井上 普方 (衆・社)
- 11、土井 たか子 (〃)
- 12、福岡 義登 (〃)
- 13、川本 敏美 (〃)
- 14、片山 甚市 (参・社)
- 15、有島 重武 (衆・公)
- 16、柏原 ヤス (参・公)
- 17、矢追 秀彦 (〃)
- 18、和田 耕作 (衆・民社)
- 19、柄谷 道一 (参・民社)
- 20、山口 敏夫 (衆・新自)
- 21、阿部 昭吾 (衆・社民連)

秘書数名

同時通訳者 三名

事務局 三名

<p>一九八一・十・三十</p>	
<p>(2) 議長…廖承志（中国全人代副委員長） 副議長…佐藤 隆 他五名 司 会…陳慕華（中国副総理） 起草委員…住 栄作 他五名</p> <p>(3) 主なる日程</p> <p>① 第一日目（十月二十七日） ○ 福田元首相の特別講演 ○ 福田元首相、国連平和賞受賞</p> <p>② 第二日目（十月二十八日） ○ 黒田俊夫博士の 「日本の人口変動の傾向と展望」講演</p> <p>③ 第三日目（十月二十九日） ○ 住代議士によるカントリー・レポート発表</p> <p>④ 最終日（十月三十日） ○ 北京宣言採択</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議 第三回運営委員会」（北京会議最終日同地にて）</p>

<p>一九八二・二・十</p>	<p>財団法人アジア人口・開発協会 創立</p> <p>☆北京会議時の第三回運営委員会に於て、発議された「アジア議員フォーラム」の活動母体として創られた。</p> <p>理事長…田中 龍夫(衆議院議員自民党総務会長)</p> <p>副理事長…佐藤 隆( ) 自民党副幹事長)</p> <p>理事…住 栄作( ) 自民党総務局長)</p> <p>〃 …花村仁八郎(経団連副会長)</p> <p>〃 …前田福三郎(日本電波塔(株)社長)</p> <p>監事…斎田慶四郎(助家族計画国際協力財団事務局長)</p>
<p>一九八二・三 (三・八、九)</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム暫定委員会」 (於…ニューデリー)</p> <p>参加国…六ヶ国…中国、日本、マレーシア、スリランカ、インド、オーストラリア</p> <p>他機関…UNFPA、IPPF、AYCP</p> <p>日本側…佐藤 隆、井上普方 他人口問題専門家</p> <p>○一九八一年十月三十日付「北京宣言」に基き「Asian Forum of Parliamentarians on Population and Development (A. F. P. P. D.)」の人口と開発に関するアジア議員フォーラム」を正式に発足。</p> <p>○AFPFD発足に伴い、この委員会はそのままAFPFD第一回運営委員会となった。</p>

一九八二・八  
(八・二一三)

「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第一回準備運営委員会」  
(於…マニラ)

参加国…日本、中国、インド、スリランカ、オーストラリア、フィリピン、他UNDP、UNFPA等  
議長…佐藤 隆

○準備委員会及び大会参加国等について  
(準備運営委員会役員にフィリピンが加わった)

一九八二・十二  
(十二・二一五)

「人口と開発に関するブラジル会議」

(於…ブラジル)

参加国…西半球諸国二十ヶ国

議題…西半球諸国の開発・人口・婦人の地位・子供の保護・移民の各問題について。

宣言…各国に「人口と開発に関する国内議員委員会」を形成し、議題としてとりあげた諸問題の改善に向け、積極的に努力する。



一九八三・三  
(三・七、九)

「元大統領・首相会議設立委員会」

(於…ウイーン、ホーフブルグ王宮)

主催…人口と開発に関するグローバル・コミッティ  
共催…国連開発計画(UNDP)  
発起人メンバー…

日 本・福田赳夫元首相

ウイーン・ワルトハイム前国連事務総長

ルーマニア・マネスク元首相

セネガル・サンゴール前大統領

コロンビア・パストラーナ・ボレロ元大統領

チュニジア・ヌイラ元首相

オプザバーバー・イギリス・ヒース元首相

第一回執行委員会…'83年5月東京で開催予定  
本会議…'83年秋開催予定

一九八三・五

(五・十九、二十)

元大統領・首相会議執行委員会

(於…東京)

福田赳夫元首相

ワルトハイム前国連事務総長

ボレロ元コロンビア大統領

第一回本会議…'83年11月中旬オーストリアで開催  
予定

<p>一九八三・七・七</p>	<p>財団法人アジア人口・開発協会理事会          厚生、外務、農林水産三省共管認可法人に拡大して          初の理事会で新たに次の十氏が理事に就任。</p> <p>〈人口・開発・食糧分野〉          理事…黒田 俊夫（日大人口研究所顧問）          ”…川野 重任（東大名誉教授）          ”…小林 和正（日大人口研究所教授）</p> <p>〈科学技術・エネルギー・資源分野〉          理事…本多 健一（東大工学部教授）          ”…森 一久（日本原子力産業会議専務理事）          ”…武田修三郎（東海大工学部教授）</p> <p>〈行政OB・官界〉          理事…内村 良英（元農林事務次官）          ”…翁 久次郎（元厚生事務次官）          ”…須之部量三（前外務事務次官）</p> <p>〈経済界〉          理事…房野 夏明（経団連総務部長）</p>
<p>一九八三・十          （十・十ゝ十二）</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回準備運営委員会」          （於…バンコク）</p> <p>参加国…日本、中国、インド、フィリピン、          UNDP、UNFPA、IPPF          議長…佐藤 隆</p> <p>○大会参加国等について</p>

一九八三・十一  
(十六、十八)

「元大統領・首相会議第一回総会」

(於…ウィーン、ホーフブルグ王宮)

主 催…人口と開発に関するグローバル・コミッティー  
共 催…国連開発計画 (UNDP)

召 集 者…福田赳夫

議 長…クルト・ワルトハイム (前国連事務総長)  
事務総長…ブラッドフォード・モース (UNDP事務総長)

構 成 国…(二十六カ国)

○日 本…福田 赳夫

○国 際 連 合…クルト・ワルトハイム

○カメルーン…アーマッド・アヒジヨ

○イタリ ア…ジュリオ・アンドレオッティ

○ネパ ー ル…キルティ・ニデイー・ビスタ

○イギ リ ス…ジェームス・キャラハン

○フ ラ ン ス…ジャック・シヤパン・デルマ

○タ イ ーランド…イックリマンサック・チョマナン

○ザ ン ビ ア…マテイアス・マインツァ・チョーナ

○ハンガリー…イエノ・ホック

○オーストラリア…マルコム・フレージャー

○アルゼンチン…アルトゥーロ・フロンデシイ

○ス イ ス…クルト・フルグラ―

○レバノ ン…セリム・ホス

○ルーマニア…マネア・マネスキュー

○ジャマイカ…ミハエル・マンレ―

○チュニジア…ヘデイー・ヌイラ

○ナイジェリア…オルセグン・オバサンジョ

○モロ ッ コ…アハメッド・オスマン

○コロンビア…ミサエル・パストラ―ナ・ボレロ

○ベネズエラ…カルロス・アンドレス・ペレ

	<p>○ポルトガル  マリア・ド・ルールド・ピンタシルゴ</p> <p>○ユーゴスラビア  ミチャ・リビチツチ</p> <p>○西ドイツ  ヘルムート・シュミット</p> <p>○セネガル  レオポルド・セダール・サンゴール</p> <p>○スウェーデン  オラ・ウルステン</p>
<p>一九八四・二・十六</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回運営委員会」 (於・ニューデリー)</p> <p>参加国・日本、中国、スリランカ、インド、オーストラリア</p> <p>議長・佐藤 隆</p> <p>○第一回大会の具体的手順及び大会以降の展開について</p>
<p>一九八四・二 (十七、二十)</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第一回大会」</p> <p>開催地・インド・ニューデリー</p> <p>会場・ビギャン・バワン(国際会議場)</p> <p>参加者・三十一カ国、四十七機関・二百九十七名</p> <p>(1)日本側出席者</p> <p>1、名誉団長 福田 赳夫(衆・自)</p> <p>2、団 長 佐藤 隆( )</p> <p>3、副団長 井上 普方(衆・社)</p> <p>4、 阿部 昭吾(衆・社民連)</p> <p>5、 矢追 秀彦(衆・公)</p> <p>6、 安孫子藤吉(参・自)</p> <p>7、 柄谷 道一(参・民社)</p> <p>8、 石井 一二(参・自)</p> <p>9、 倉田 寛之( )</p>

	一九八四・二・二十
<p>(2) 議 長…バルラム・ジャカール(インド国会議長) 司 会…サット・ポール・ミッタール(アジ アフォーラム事務総長) 起草委員…石井一二 他五名</p> <p>(3) 主なる日程</p> <p>① 第一日目(二月十七日) 福田赳夫元首相(グローバル・コミッテイ会 長)・歓迎挨拶 インデラ・ガンジーインド首相・歓迎挨拶 ヘルムット・シュミット西独前首相基調演説</p> <p>② 第二日目(二月十八日) 黒田俊夫博士「国家開発政策——人口と開発 の新たな元」講演</p> <p>③ 第三日目(二月十九日) ランジット・アタパト・スリランカ厚生大臣 「スリランカ・住民参加」講演</p> <p>④ 最終日 ニューデリ宣言採択</p>	<p>「人口と開発に関するアジアフォーラム・各国代表者 会議」 参加国…AFPPD公式参加国(十六カ国) UNDP・UNFPA・IPPF 議 長…佐藤 隆 ○AFPPD活動方針と展望、今後の活動計画に ついて</p>

一九八四・八  
(八・六十四)

「国連・国際人口会議」

(於…メキシコ)

参加国…百四十九カ国

日本政府首席代表・湯川宏厚生政務次官

日本政府顧問団

田中龍夫(衆議院議員・自)  
佐藤隆(衆議院議員・自)  
水田稔(衆議院議員・社)  
永井孝信(衆議院議員・社)  
矢追秀彦(衆議院議員・公)  
柄谷道一(参議院議員・民)  
石井一二(参議院議員・自)  
黒田俊夫(厚生省人口問題審議会委員)  
安川正彬(厚生省人口問題審議会委員)

一九八四・八  
(十五、十六)

「人口と開発に関する国際議員会議」(於…メキシコ)

参加国…六十カ国

日本代表団

福田赳夫(衆議院議員・自)  
          ^GCPD議長  
田中龍夫(衆議院議員・自)  
佐藤隆(衆議院議員・自)  
          ^AFPPD議長  
水田稔(衆議院議員・社)  
永井孝信(衆議院議員・社)  
矢追秀彦(衆議院議員・公)  
柄谷道一(参議院議員・民)  
石井一二(参議院議員・自)  
三塚博(衆議院議員・自)

一九八五・二  
(二・五・七)

「第一回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」  
(於…東京・外務省国際会議室)

主 催…財団法人・アジア人口・開発協会 (A P D A)

出席者…○日本…福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、住

栄作、関谷勝嗣、鹿野道彦、桜井

新 (衆・自民)

安孫子藤吉、倉田寛之、石井一二

(参・自民)

井上普方 (衆・社会)

矢追秀彦 (衆・公明)

高桑栄松 (参・公明)

塩田 晋 (衆・民社)

柄谷道一 (参・民社)

阿部昭吾 (衆・社民連)

○オーストラリア…B・J・グッドラック

○中国…許濂新、何理良

○インド…S・P・ミッター

○インドネシア…マルトノ移住大臣

○韓国…モイム キン

○マレーシア…ラーマ オスマン交通副大

臣

○ネパール…ドロン シュム シャーラナ

○フィリピン…カルメンシート レイエス

国務副大臣

○スリランカ…ランジット アタバト厚生

大臣

○タイ…ブンテイウム カマピラド運輸通

信副大臣

日程：第一日目（二月五日）

開会式 A P D A 理事長・田中龍夫挨拶  
内閣総理大臣・中曾根康弘（山崎拓内閣  
官房副長官代理）

外務大臣・安倍晋太郎（森山眞弓外務政  
務次官代理）

財団法人日本船舶振興会会長・笹川良一  
（同財団理事長篠田雄次郎代理）  
がそれぞれ祝辞

人口と開発に関するアジア議員フォーラ  
ム事務総長・S・P・ミツタール挨拶

感謝状贈呈 財団法人・日本船舶振興会  
会長 笹川良一（二月五日夕、マツヤサ  
ロンで贈呈）

国連人口活動基金事務局長 R・サラス

基調講演・国連人口活動基金事務局長

R・サラス

本会議・セッションI ランジットア  
タバト・スリランカ厚生大臣を議長に選  
出

セッションII 問題提起

中国人口基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

小林和正（日大人口研究所教授）

インド農村人口と農業開発調査

川野重任（東京大学名誉教授）

大内 穂（アジア経済研究所経済成長  
調査部長）



	<p>一九八五・四 (二十四～二十六)</p>
<p>タイ人口と開発基礎調査・社会福祉関連調査</p> <p>黒田俊夫(日大人口研究所名誉所長) 山本幹夫(帝京大客員教授・総合保健研究所長)</p> <p>日本の人口転換と農村開発</p> <p>岡崎陽一(厚生省人口問題研究所長) 阿部 誠(厚生省人口問題研究所人口資質部長)</p> <p>日本の農業・農村開発と人口——その軌跡(スライド)</p> <p>第二日目(二月六日) セッションⅢ・Ⅳ 総括討論</p> <p>第三日目(二月七日) セッションⅤ 閉会</p>	<p>「元大統領・首相会議第三回総会」 (於…パリ国際会議場)</p> <p>名誉議長…福田赳夫元首相 議長…ワルトハイム前国連事務総長 事務総長…ブラッドフォード・モースUNDP事務総長</p> <p>参加国…二十四ヶ国</p> <p>○それまでの、三つの主要課題に加え、人口問題が取り上げられることに決定。</p> <p>○第四回総会は、一九八五年四月、日本で開催される予定。</p>

<p>一九八五・五 (十三、十四日)</p>	<p>○佐藤隆代議士（人口と開発に関する世界委員会常任理事）が、特別講演を行ない、OBサミットで人類の生存と平和を脅かす「人口問題」を取りあげるよう進言。その結果、主要課題の一つにすることを決定。人口問題に関するタスクフォースを組織し、主幹に福田赳夫元首相が就任することになった。</p>
<p>一九八六・三 (三・三、五)</p>	<p>「第二回人口と開発に関するインド議員会議」 (於…ニューデリー国際会議場)</p> <p>参加者数…約四百名</p> <p>○日本からは、佐藤隆代議士（人口と開発に関するアジア議員フォーラム議長）が、開会式に来賓として出席、基調講演した。</p>
<p>一九八六・三 (三・三、五)</p>	<p>「第二回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」 (於…東京・経団連国際会議場)</p> <p>主催…財団法人・アジア人口・開発協会（APDA）</p> <p>出席者…○日本…福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、住栄作、鹿野道彦、桜井新（衆・自民）</p> <p>安孫子藤吉、林寛子、石井一二一 (参・自民)</p> <p>水田稔、土井たか子（衆・社会）</p> <p>矢追秀彦（衆・公明）</p> <p>高桑栄松、塩出啓典（参・公明）</p> <p>柄谷道一（参・民社）</p> <p>○中国…何理良</p> <p>○インド…S・P・ミッター、D・C・ジャイン</p>

- インドネシア・マルトノ移住大臣
- 韓国・ジャンスック・キム
- スリランカ・P・M・Bシリル県大臣
- タイ・ブンテイウム・カマピラド運輸通  
信副大臣

日 程・・第一日目（三月三日）

開会式（司会 林 寛子）

A P D A 理事長・田中龍夫挨拶

外務大臣・安倍晋太郎（浦野侖興外務政  
務次官代理）挨拶

国際人口問題議員懇談会会長・福田赳夫  
歓迎挨拶

人口と開発に関するアジア議員フォーラ  
ム事務総長・S・P・ミッター参加者  
代表挨拶

国連人口活動基金事務局長 R・サラス  
来賓挨拶

本会議・セッション I 住 栄作議員を議  
長に選出

セッション I ト 1・2 問題提起  
中国人口家族計画基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

小林和正（日大人口研究所教授）  
インド人口・開発基礎調査

嵯峨座晴夫（早稲田大学文学部教授）

タイ農村人口と農業開発調査

川野重任（東京大学名誉教授）

原 洋之介（東京大学東洋文化研究所  
助教授）

バンコクの人口都市化と生活環境・福祉  
調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

ネパール人口家族計画基礎調査

松本信雄（東京慈恵会医科大学教授）

大内 穂（アジア経済研究所経済成長

調査部長）

日本の人口都市化と開発

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

岡崎陽一（厚生省人口問題研究所長）

日本の都市化と人口（スライド）

セッションⅠ―3 討議

第二日目（三月四日）

セッションⅡ（議長 住栄作議員）

各国カントリーレポート及び討議

セッションⅢ（議長 佐藤 隆議員）

総括討議

閉会式

第三日目（三月五日）

都内視察

<p>一九八六・五 (五・十二、十六)</p>	<p>「人口と開発に関するアフリカ国会議員会議 開催地…ジンバブエ・ハラレ市 参加国…三十九ヶ国 主催…人口と開発に関する国会議員世界委員会 ジンバブエ議会 *「ハラレ宣言」採択 ○アフリカの議会制度を持つ国は三十六ヶ国、この内三十一ヶ国と議会制度を持たぬ国八ヶ国がオブザーバーとして参加したが、これはアフリカにおいて過去開催された議員会議の中で最大規模のもの。</p>
<p>一九八六・九 (九・二十六、十二)</p>	<p>ネパール人口事情視察議員団派遣 参加議員(計十名) 福田超夫(名誉団長)、田中龍夫(団長)、佐藤 隆、桜井 新、金子みつ、矢追秀彦、安倍基雄、林 寛子、石井一二、高桑栄松 ○ネパールに発足したての人口・開発議員連盟等との会議も行なわれた。</p>
<p>一九八六・十 (十・六、七)</p>	<p>「人口と開発に関するアフリカ議員カウンシル」発足会議 開催地…ケニヤ・ナイロビ市 参加国…アフリカ十三ヶ国、他五ヶ国、他九機関 ○同年五月十六日付ジンバブエにて採択された「ハラレ宣言」に基づき、アフリカ地域における各国の人口・開発議員グループ間での意見交換等の活動を調整・促進、また「ハラレ宣言」をフォローする等のため同カウンシルを正式に発足したものの。 初代議長には、マダガスカルのジャン・ルイ・ラマンドライアソア氏が就任。</p>

一九八六・十  
(十・十七、十八)

「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」  
(於…ジャカルタ)

参加国…日本、中国、スリランカ、インド、シリア、インドネシア、他八機関

議長…佐藤 隆(日本)

○第二回AFPFD総会を一九八七年十月二十一日二十三日、北京にて開催することを正式に決定。

一九八七・二  
(二・二十三)

(二十四)

「第三回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」

(於…バンコク・タイ国国会議事堂 エスカップ会議場)

主催…財団法人アジア人口・開発協会(APDA)

出席者…○日本…福田赳夫、佐藤隆(衆・自民)

林寛子、石井一二(参・自民)

伊藤忠治(衆・社会)

有島重武(衆・公明)

阿部昭吾(衆・社民連)

○中国…ヤン・レン・ヤン、何理良

○インド…S・Pミッタール、M・ブラシ

ヤド

○インドネシア…マルトノ移住大臣

○韓国…K・J・ドンク

○マレーシア…R・オスマン運輸副大臣

○ネパール…D・S・ラナ、P・B・サポ

コタ

○シリア…H・サディック

○スリランカ…U・B・ウイジェクーン

(ジャフナ自治大臣)

○タイⅡブラソップ・R、M・L・トリド  
シユス、V・ビトゥーン・O、プ  
アングルト・W、プーンスク・L

日 程…第一日目（二月二十三日）

開会式（於…タイ国会議事堂会議場）

開会の辞…ウクリット・M（タイ国国会  
議長）

主催者挨拶…佐藤隆（APDA副理事長）

来賓挨拶Ⅱ J・S・シン（サラスUNF  
PA事務局長・代理）

来賓挨拶Ⅲ 福田赳夫（国際人口問題議員  
懇談会会長）

主催国挨拶Ⅱ ブラソップ・R（タイ国人  
口問題議員懇談会会長）

本会議…セツションI 問題提起・質疑  
応答

（於…エスカップ・会議場）  
議長…

インドネシア 人口・開発基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

インドネシア 農村人口と農業開発調査

原 洋之介（東大東洋文化研究所助教  
授）

タイ 村落レベルでの人口と開発

ミツチャイ・V（PCDP事務局長）

第二日目（二月二十四日）

セツションI-2 問題提起・質疑応答  
（於…エスカップ会議場）

現在及び将来の開発計画に関する年齢構造  
変動の政策的合意

ニボン・デババルヤ（エスカップ人口  
部部長）

日本の労働力人口と開発

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

日本の産業発展と人口（スライド・制作  
APDA）

セッションII-1/2

各国カントリレポート発表および討議

総括討議

閉会式

一九八七・九  
（九・二三～二五）

「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回大  
会」

期 日…九月二十三日～二十五日

開催地…中国・北京市

会 場…人民大会堂、崑崙ホテル国際会議場

参加者…二十九ヶ国、十六機関…約二百名

（1）日本代表出席議員

名誉団長…福田 赳夫（衆・自民）

団 長…佐藤 隆（衆・〃）

谷 津 義 男（衆・〃）

林 寛 子（参・〃）

田 代 由紀男（参・〃）

石 井 一二（参・〃）



副団長…井上 普方(衆・社会)

城地 豊司(衆・〃)

有島 重武(衆・公明)

矢追 秀彦(衆・〃)

高桑 栄松(参・〃)

三治 重信(参・民社)

阿部 昭吾(衆・社民)

(2) 議長…佐藤 隆(日本)

副議長…胡 克 實(中国)

〃 …P・ラタナクーン(タイ)

〃 …M・チョードウリー(バングラーデシュ)

起草委員…G・S・ヤジャン(インド)

ツアン・ツォングリー(中国)

矢追 秀彦(日本)

R・ラモス・シャハニ(フィリピン)

B・グッドラック(オーストラリア)

(3) 主なる日程

① 開会式

\*趙紫陽・中国首相、他の挨拶

\*福田赳夫・日本国元首相の基調講演

② セッション

① アジアの人口と開発

② アジアの保健サービス・家族計画

③ 都市化

④ アジアの人口と食糧

⑤ 人口高齢化

③ AFPPD北京宣言採択

④ AFPPD規約採択

⑤ AFPPD役員改選(9ヶ国)

\*議長には佐藤隆議員(日本)が再任された。

<p>一九八七・九 (九・二六―二九)</p>	<p>中国人口事情視察議員団派遣(山東省)</p> <p>団 長…有 島 重 武(衆・公明)</p> <p>谷 津 義 男(衆・自民)</p> <p>城 地 豊 司(衆・社会)</p> <p>高 桑 栄 松(参・公明)</p> <p>三 治 重 信(参・民社)</p> <p>他、随 行 7 名</p> <p>* 中国・国家計画生育委員会との協力で、山東省にて実施されている家族計画プロジェクトを視察。</p>
<p>一九八八・二―三 (二・二九―三・一)</p>	<p>「第四回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」</p> <p>(於…クアラルンプール・マレーシア国会議事堂 パンパシフィックホテル・ボールルームB)</p> <p>主 催…財団法人アジア人口・開発協会(A P D A)</p> <p>共 催…マレーシア人口・資源・開発議員連盟</p> <p>出席者…○日本  田中龍夫(衆・自)</p> <p>林寛子、石井一二(参・自)</p> <p>坂上富夫(衆・社)</p> <p>有島重武(衆・公明)</p> <p>三治重信(参・民社)</p> <p>○オーストラリア  B・J・グッドラック</p> <p>○中国  胡克実</p> <p>○インド  J・R・グプタ</p> <p>○韓国  K・J・ドンク</p> <p>○ネパール  P・B・シャヒ</p> <p>○ニュージーランド  S・デイビス</p> <p>○シンガポール  S・サニフ</p> <p>○スリランカ  R・アタパト</p>

○シリアⅡG・タヤラ

○タイⅡブラソップ・R、チュムサイ・H

○マレーシアⅡA・H・A・バダウイ、P・

H・ラーマ・オスマン、A・

H・イブラヒム、Z・A・ジ

ン、M・ザカリヤ、I・M・

サイド、Z・M・ハッサン、

A・R・ベイカー、S・S・ス

ブラマニアム、M・T・イス

マエル、C・J・メン

日程：第一日目（二月二十九日）

開会式（於：マレーシア国会議事堂会議場）

主催者挨拶：田中龍夫（APDA理事長）

共催者挨拶：A・バダウイ（マレーシア

人口・資源・開発議員連盟

会長）

来賓挨拶：胡克實（AFPPD副議長）

来賓挨拶：J・S・シン（N・サテイッ

クUNFPA事務局長・代理）

主催国挨拶：モハメッド・ザヒール（マ

レーシア国下院議長）

本会議セッション I-1

問題提起・質疑応答

（於：パンバシイフィックホテル・ボ

ールルームB）

中国——人口・開発基礎調査

黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉  
所長）

	<p>中国 ― 農村人口と農業開発調査 濱下武志（東京大学東洋文化研究所 助教授）</p> <p>マレーシア ― 都市化・人口移動・開 発 K・サレイ（マレーシア経済研究所 所長）</p> <p>マレーシア ― 農業と農村開発 K・カチャ（農業大学副総長）</p> <p>アジア諸国の人口と農業政策 G・D・ネス（ミシガン大学教授）</p> <p>第二日目（三月一日）</p> <p>スライド“日本の人口移動と経済発展” （APDA制作）</p> <p>セッションII 各国カントリーレポート発表および討 議</p> <p>総括討論</p> <p>閉会式</p>
--	---

『アジア人口30億人の日』（於…東京プリンスホテル）  
共催…人口と開発に関するアジア議員フォーラム、国  
際人口問題議員懇談会、財団法人アジア人口・  
開発協会

主な出席者

（敬称略）

〔国會議員〕

- 福田 赳夫（衆・自民） 永野 茂門（参・自民）
- 田中 龍夫（衆・〃） 金子 みつ（衆・社会）
- 佐藤 隆（衆・〃） 有島 重武（衆・公明）
- 鹿野 道彦（衆・〃） 矢追 秀彦（衆・〃）
- 谷津 義男（衆・〃） 山田 英介（衆・〃）
- 石本 茂（参・〃） 高桑 栄松（参・〃）
- 林 寛子（参・〃） 中西 珠子（参・〃）
- 田代由紀男（参・〃） 三治 重信（参・民社）
- 石井 一二（参・〃） 阿部 昭吾（衆・社民）

〔来 賓〕

マレーシア国……ラーマ・オスマン上院議員  
インド国……サット・ポール・ミッタール

前上院議員

- 国連人口基金（UNFPA）事務次長功刀 達朗
- 国際家族計画連盟（IPPF）東アジア・東南ア  
シア・太平洋理事  
会会長ジョアン・  
タンブ

〔国際機関〕

- 国連人口基金（UNFPA）広報渉外部長  
ジョテイ・シン
- 国連人口基金（UNFPA）事業企画調整局長  
安藤 博文

国連開発計画（UNDP）東京連絡事務所所長

石樽 利光

〔在日大使館〕

オーストラリア大使館 A・T・カルバート代理大使

〔官 界〕

外務省 金子 義和 国際連合局社会協力課長

厚生省 河野 稠果 人口問題研究所所長

厚生省 内野 澄子 人口問題研究所人口構造部長

総務庁 三浦 由己 統計局長

環境庁 森 幸男 企画調整局長

長谷川慧重 大気保全局長

〔学識経験者〕

黒田 俊夫 日本大学人口研究所名誉所長

川野 重任 東京大学名誉教授

安川 正彬 慶応大学経済学部教授

大内 穂 アジア経済研究所総合研究部主幹

武田修三郎 東海大学工学部教授

畑井 義隆 明治学院大学経済学部教授

吉田 長雄 アジア生産性機構事務局長

日程

第一部（アナウンスメント）

「アジア人口30億人の日」

人口と開発に関するアジア議員フォーラム議長

佐藤 隆

第二部（記念講演）

「30億人を取り囲む環境問題」（記念講演）

環境庁長官 堀内 俊夫

「アジアは30億人をどう支えるか」ミシガン大学教授

	<p>一九八八・ 十一・二十八</p>	<p>一九八八・ 十・十九～二十六</p>	
	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」(於東京)</p> <p>参加国・オーストラリア、中国、インド、日本、マレーシア、シリア、タイ、他二機関。</p> <p>議長・佐藤 隆(日本)</p> <p>○アジア人口30億人の日の行事の成果、今後の活動計画について。</p>	<p>バンングラデシュ人口事情視察議員団派遣</p> <p>団 長・中西 一郎(参・自民)</p> <p>副団長・井上 普方(衆・社会)</p> <p>田代由紀男(参・自民)</p> <p>武村 正義(衆・自民)</p> <p>平石磨作太郎(衆・公明)</p> <p>大矢 卓史(衆・民社)</p> <p>(他随員四名)</p> <p>○パンチドナにおける家族計画プロジェクト視察、人口・開発関係議員との合同会議等を行った。</p>	<p>第三部 記者会見</p> <p>第四部 レセプション</p> <p>ゲイル・D・ネス</p>

「第五回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」

(於 フィリピン国・マニラ P I C C)

主 催…財団法人アジア人口・開発協会 (A P D A)  
共 催…フィリピン人口と開発国会議員委員会

出席者…

○日本…福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、武村正義 (衆・自)、  
関山信之 (衆・社)、矢追秀彦 (衆・公明)、阿部昭吾 (衆・社民)

○中国…胡克實

○インド…S・P・ミッタール、S・ジョシイ、V・

バーマ

○インドネシア…マックボン

○韓国…S・S・モック、L・J・ロール

○マレーシア…R・オスマン、Z・A B・ザアイン

○ネパール…T・J・タバ

○シリア…H・サディック

○タイ…プラソップ・R、トリトシユス・D、ブアン

グラット・V

○フィリピン…L・R・シャハニ、T・アキノオレタ、

J・エストラダ、E・ヘレラ、O・メルカド、

S・ラスル

日 程…第一日目 (二月十七日)

開会式 (於…P I C C ルーム4)

開会の辞…T・アキノオレタ (フィリピン人

口・開発国会議員委員会副委員長)

共催者挨拶…L・R・シャハニ (フィリピン

人口・開発国会議員委員会委員長)

主催者挨拶…田中龍夫 (A P D A 理事長)



	<p>来賓挨拶…福田赳夫（人口と開発に関する国会議員世界委員会会長）</p> <p>来賓挨拶…S・P・ミッタール（AFPPD事務総長）</p> <p>来賓挨拶…J・S・シン（N・サディックUNFPA事務局長・代理）</p> <p>来賓挨拶…T・K・マンガン（UNFPA地域事務所長）</p> <p>基調講演…S・C・モンソダ（フィリピン国家経済開発庁長官）</p> <p>本会議（於…PICCルーム11）</p> <p>セッションI 人口と開発調査研究</p> <p>中国——人口・開発基礎調査</p> <p>黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉所長）</p> <p>フィリピン——農村における家族計画指導</p> <p>J・フラビエ（国際農村再建研究所所長）</p> <p>挨拶</p> <p>佐藤隆（AFPPD議長）</p> <p>スライド「日本の人口と家族」（APDA制作）</p> <p>第二日目（二月十八日）</p> <p>セッションII 21世紀に向けて——人口転換と経済社会開発</p> <p>各国カントリーレポート及び討議</p> <p>総括討論</p> <p>閉会式</p>

	<p>一九八九・ 二・十九</p>
	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」(於 フィリピン・プラザホテル会議室)      参加国…中国、インド、日本、マレーシア、フィリピン、シリア、タイ 他三機関      ○AFPPDの長期展望及び婦人会議開催について</p>

## 本協会実施調査報告書及び出版物

### 昭和58年度

1. 中華人民共和国人口家族計画基礎調査報告書  
Basic Survey on Population and Family Planning  
in the People's Republic of China (英語版)  
生育率和生活水平关系中日合作調查研究报告  
(中国語版)

### 昭和59年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書  
—インド国—  
Report on the Survey of Rural Population and  
Agricultural Development in Asian Countries  
—India— (英語版)
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書  
—タイ国—  
Report on the Basic Survey of Population and Deve-  
lopment in Southeast Asian Countries  
—Thailand—

3. 日本の人口転換と農村開発

Demographic Transition in Japan and Rural Deve-  
lopment (英語版)

4. Survey of Fertility and Living Standards in Chinese  
Rural Areas —Data— All the households of two  
villages in Jilin Province surveyed by questionnaires  
(英語版)

关于中国农村的人口生育率与生活水平的调查报告  
— 对吉林省两个村进行全戸面談調查的结果 —  
—统计編— (中国語版)

5. スライド 日本の農業、農村開発と人口

— その軌跡 — (日本語版)

Agricultural & Rural Development and, Population  
in Japan (英語版)

日本农业农村的发展和人口的推移 (中国語版)

Perkembangan Pertanian, Masyarakat Desa Dan  
Kependudukan Di Jepang (インドネシア語版)

(以上4カ国版スライドは、日本産業教育スライドコ  
ンクールにて優秀賞を受賞しました。)

## 昭和60年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書  
—タイ国—  
Report on the Survey of Rural Population and  
Agricultural Development in Asian Countries  
—Thailand— (英語版)
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書  
—インド国—  
Report on the Basic Survey of Population and  
Development in Southeast Asian Countries  
—India—
3. 中華人民共和国人口・家族計画第二次基礎調査報告書  
Basic Survey (II) on Population and Family Planning  
in the People's Republic of China  
生育率和生活水平关系第二次中日合作調査研究報  
告書 (中国語版)
4. ネパール王国人口・家族計画基礎調査  
Basic Survey Report on Population and Family  
Planning in the Kingdom of Nepal (英語版)

5. 日本の人口都市化と開発  
Urbanization and Development in Japan (英語版)
6. バンコクの人口都市化と生活環境・福祉調査  
—データ編—  
Survey of Urbanization, Living Environment and  
Welfare in Bangkok —Data—  
(英語版)
7. スライド  
日本の都市化と人口 (日本語版)  
Urbanization and Population in Japan (英語版)  
日本の城市化与人口 (中国語版)  
Urbanisasi Dan kependudukan Di Jepang  
(インドネシア語版)

## 昭和61年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書  
—インドネシア国—  
Report on the Survey of Rural Population and  
Agricultural Development in Asian Countries  
—Indonesia— (英語版)

2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書  
——インドネシア国——  
Report on the Basic Survey of Population and  
Development in Southeast Asian Countries  
——Indonesia——（英語版）
3. 在日留学生の学習と生活条件に関する研究  
—— 人的能力開発の課題に即して ——
4. 日本の労働力人口と開発  
Labor Force and Development in Japan（英語版）
5. 人口と開発関連統計集  
Demographic and Socio-Economic Indicators on  
Population and Development（英語版）
6. スライド 日本の産業開発と人口  
——その原動力・電気——（日本語版）  
Industrial Development and Population in Japan  
——The Prime Mover-Electricity——（英語版）  
日本の产业发展与人口  
——其原动力-曳气——（中国語版）  
Pembangunan Industri dan kependudukandi Jepang  
——Penggerak Utama-Tenga Listrik——  
（インドネシア語版）

7. ネパール王国人口家族計画第二次基礎調査  
Complementary Basic Survey Report on Population  
and Family Planning in the kingdom of Nepal

### 昭和62年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書  
——中華人民共和国——  
Report on the Survey of Rural Population and  
Agricultural Development in Asian Countries  
——China——（英語版）
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書  
——中華人民共和国——  
Report on the Basic Survey of Population and  
Development in Southeast Asian Countris  
——China——（英語版）
3. アジア諸国からの労働力流出に関する調査研究  
——フィリピン国——
4. 日本の人口と農業開発  
Population and Agricultural Development in Japan  
（英語版）

5. ネパールの人口・開発・環境  
Population, Development and Environment in Nepal  
(英語版)

6. スライド  
日本の人口移動と経済発展 (日本語版)  
The Migratory Movement and Economic Development in Japan (英語版)  
日本の人口移動と经济发展 (中国語版)  
Perpindahan Penduduk Dan Perkembangan Ekonomi Di Jepang (インドネシア語版)

7. トルコ国人口家族計画基礎調査

### 昭和63年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書  
——ネパール国——  
Report on the Survey of Rural Population and Agricultural Development ——Nepal—— (英語版)

2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書  
——中華人民共和国——

Report on the Basic Survey of Population and Development in Southeast Asian Countries  
——China—— (英語版)

3. アジア諸国からの労働力流出に関する調査研究  
——タイ国——

4. 日本の人口と家族  
Population and the Family in Japan (英語版)

5. アジアの人口転換と開発——統計集——  
Demographic Transition and Development in Asian Countries ——Overview and Statistical Tables——  
(英語版)

6. スライド  
日本の人口と家族 (日本語版)  
Family and Population in Japan  
——Asian Experience—— (英語版)  
日本の人口と家庭 (中国語版)  
Penduduk & Keluarga Jepang (インドネシア語版)

7. ペルー共和国人口家族計画基礎調査

平成元年 9月30日発行 (季刊)

「アジア 人口と開発」 №30

発行者 田中 龍夫

発行所 財団法人 アジア 人口・開発協会

〒100 千代田区永田町2-10-2

永田町TBRビル710号

TEL 03 (581) 7770 (代表)